

日本森林保健学会北海道セミナー活動報告

去る2011年2月19日(土)、苫小牧市の植苗病院で、日本森林保健学会北海道セミナーが開かれ、保育士さんや学校関係者、森林整備に携わる方、福祉関係者、医療関係者などの方々が30名ほど集まってくださいました。

第1回目となる今回のテーマは『子どもが森で花開くために』。

子どもの保育、教育の実践者の方お二人を講師に招いてお話を伺い、

1. 子どもにとっての自然体験の重要性
2. 子どもが自然環境の中で、その感性を花開かせ、自己を形成していくために必要な要件(大人の存在、在り方、養育者との連携、地域との連携、身近な自然環境の存在など)
3. 日本の既存の「森のようちえん」活動や、子どもの野外教育活動の現状と課題
4. 子どもの自然環境での体験を促進するもの、阻むものなどについての意見交換、活発な討議がなされました。

今回のセミナーを通して、

1. 子どもが自然体験の中で心身や社会性における発達を促進されることへの認識が広がりつつも、今の日本社会における厳然とした知育重視の保育・教育態度、ケガや汚れることを忌避する傾向、など、子どもと自然を遠ざける要因をどう捉え、どう解決していくのか?
 2. 子どもと自然を結んでいくために、手作り、子ども中心、地域、大人の関わり、身近な子どもがアクセスしやすい自然環境がいかに重要であるかということ
 3. 心の傷、トラウマを抱えた子供にとっての自然環境の重要性
- といったことに大きな啓発を受け、また研究課題を得、実り大きな活動となりました。

セミナーの講師をしてくださった、参加してくださった方々に深く感謝いたします。

以下にセミナーを聴講された方々のご感想を紹介させていただきます。

セミナー参加者からの感想より

●家裁で非行少年を扱っていると、彼らが幼児期からとても理不尽な人間関係の中で生きてきたことを知らされます。重大な非行を犯す子ども達を、今、社会は厳格に処罰すべきと考えるようになっていますが、不憫で、とてもそんな処罰で対応するだけで、ことが解決されるものではないことに気づかされるのです。(中略)

子どもたちが屈託なく笑える状況を我々、大人たちがどうやって保障するか、引き続き考えていきたいと思いました(60代男性)。

●自分でも森の活動の一年間を振り返ることができ、来年度から理論的にもきちんと整理できそうです。森の活動スタッフもよろこんでいました（学校関係 30代女性）。

●スライドからこどもの笑顔から、理屈ではなく、こどもが生き生きとすることこそが本当に大切なことだと気づかされました（医療関係 50代女性）。

以上、大変有意義なセミナーでした。
皆様貴重な体験をありがとうございました。

日本森林保健学会では、今後もこのようなささやかなセミナーを各地で開いていきたいと構想しております。

取り上げてほしいテーマなどがありましたら、email@forest-health.com までご連絡くださいませ。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。（文責 瀧澤紫織）

